



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 157

2022

4.26

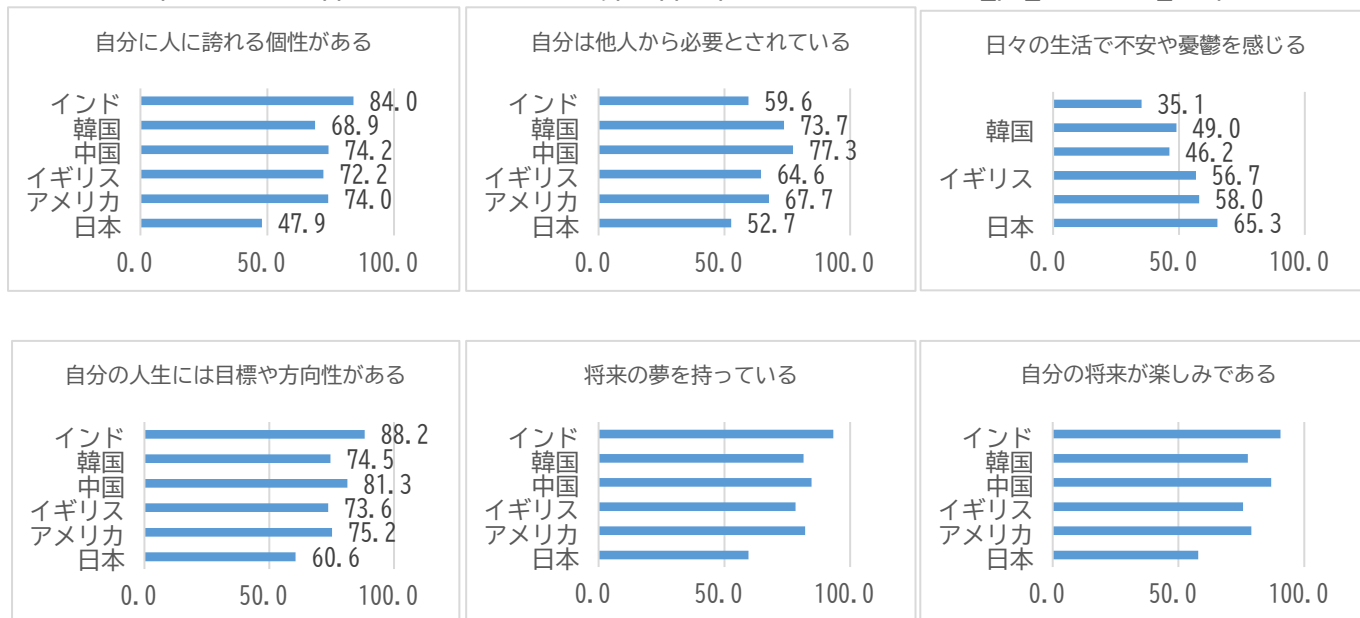
コミコミスク

18歳から“大人”に！成年年齢が引き下げられました その2

前号では成人年齢が18歳に引き下げられたことに関連して、現在の若者の意識をさぐってみました。今号でも引き続き、2022年3月24日に報告された最新の日本財団の調査報告からさらに若者の傾向を探ってみました。

◎18歳意識調査「第46回-国や社会に対する意識(6カ国調査)-」日本財団報告書より

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf



ここでは主に自分自身について問われたものをピックアップしてみました。これらは非認知能力面に関わるものであり、他国に比べ非認知能力面に課題があるのではということが見えてくるように思います。皆さんはどう感じられますか。

この調査結果から「これが日本の若者の傾向だ」と一概には言えませんが、この調査結果を見た後、「先生、どうか皆の前でほめないで下さい」(金間大介著 東洋経済)という本を読むと、調査報告と本に書かれている若者の現状が重なって見えてきました。本には大学教授として日々学生に接する中で見えてきた学生の行動原則や心理的特徴を「いい子症候群」として定義づけられ、事例をまじえわかりやすく紹介されています。



「いい子症候群」の若者の行動原則として

- 周りや仲良くて、協調性がある
- 一見、さわやかで若者らしさがある
- 学校や職場などでは横並びが基本
- 5人順番を決めるときは3番目か4番目を狙う

○言われたことをやるけど、それ以上はしない…(「先生、どうか皆の前でほめないで下さい」より)といったことが全部で17個あげられています。読みながら若者ではなく、日本人の傾向では?と思えてきました。調査報告と本に描かれている若者の姿から、若者が育った背景や環境をしっか

りと考えていく必要があり、これからの教育を考えると、この調査報告や本に書かれている内容はヒントになるのではと思いました。また、この本を読みながら、若者の姿には非認知能力の育ちが大きく関わっていると感じています。非認知能力はこれからの社会を生きていく上で必要な資質・能力として世界で注目されています。今回の学習指導要領の中でも新しい時代に必要な資質・能力として幼児期から貫かれた3つの柱として非認知能力に焦点が当てられています。非認知能力は学校だけで育つものではなく、同じ時に同じように身に付くものでもなく、子どもが育つ地域社会の縦のつながり、横のつながり、斜めのつながり等様々な人との関わりの中で、様々な経験を通して個々それぞれにジワジワと染みこんでいくものではと考えています。

また、この本には「いい子症候群」の若者が「究極のしてもらい上手」と表現されています。

「究極のしてもらい上手」というフレーズを目にしたとき、工藤勇一先生（前麴町中校長、現横浜創英中・高等学校長）がよく言われている「“与える”だけの学校教育が子どもたちの自律心や当事者意識を奪っている」とピッタリと私の中で重なってきました。今大きな転換点にある教育を考える時、こうした調査結果やこうした若者の傾向をベースに考えることが必要ではと考えます。そして、今コミュニティ・スクールが推進されている背景には認知能力だけでなく、非認知能力が育つ環境を社会全体でつくっていくこと求められていることがあるからだと考えます。そして学校・家庭・地域がつくる当事者として、非認知能力が育つ環境をつくるというゴールを共有し、協働していくことが、持続可能な社会づくりにつながるという考えがベースにあると考えています。このようにコミュニティ・スクールを考えてみると「社会に開かれた教育課程」のイメージが湧いてきませんか。もし興味を持たれたら調査結果や非認知能力をベースにまず近くの人と非認知能力が育つ環境について対話することから始めていただけたらと思っています。

松が丘小ブックスポットがオープンしました



4月25日、松が丘小学校でブックスポットがオープンしました。ブックスポットは自宅やお店に本棚を設置し、近所の方やお客さんに自由に本を読んでもらったり、本を通して交流をしていただくという私設の地域の中の交流拠点です。

松が丘小では昨年度、校長先生、ブックママさん、図書館司書さんが話をする中で、コロナ禍が続く中で、家に閉じこもりになりがちな地域の方が交流する場として、また子どもたちが本を通して地域の方とつながる場ができたという話になったそうです。それぞれが同様の思いを持っていたことが分かり、ブックスポット設置の話がすぐに具体化され、学校運営協議会で議論され開設が決まったそうです。西館1階の玄関をブックスポットとして本棚を設置し、寄贈さ



れた本を置く準備を進めていました。本も家庭や地域に呼びかける中で、様々な本が集まり、本の分類や、ブックカバー等の作業にブックママさんがまだまだ奮闘中です。先週には玄関にブックスポットの看板が張られ、開設に向け、着々と準備を進めてきました。設置された本棚にはまだ空きスペースがあり、そのスペースが本で埋まり、

本をとおして新たな交流が始まるのが楽しみです。手作り感いっぱいブックスポットですが、すでに“もっとかわいらしいブックスポットに”という改造プランもあるようで、これからどんな風

に進化していくか楽しみです。本の寄贈等もまだまだ受け付けているようです。近所に来られた時は是非お立ち寄りください。問い合わせ等がありましたら松が丘小学校（078-918-5435）までお願いします。（文責：北本）

